



多文化共生の取り組みと新たな国際交流拠点 ～「鹿児島に住んで良かった」と思える地域づくりのために～

鹿児島県観光・文化スポーツ部国際交流課

鹿児島県の多文化共生の取り組み

鹿児島県の在留外国人数は2020年12月末時点で1万2,204人となっており、2010年からの10年で約2倍になっており、全国的に見ても高い増加率となっています。

今回は、本県で実施している「かごしま多文化共生社会推進事業」のうち、2020年度からモデル的に実施している2つの講座について紹介します。

①日本語・日本文化等理解講座

従来は、対面による「日本語・日本文化等理解講座」を実施していましたが、2020年度からは交通手段が限られるなどの事情により、日本語教室などに参加することが難しかった外国人住民にも日本語学習の機会を提供することを目的に、Zoomを活用したオンラインによる講座を実施しています。

機器の操作もよくわからないところから実験的に始めた取り組みでしたが、2020年度は、離島を含む県内各地の外国人住民の方に参加いただき、毎回賑やかに講座が開催されました。



オンラインによる日本語講座の様子

②日本語サポーター養成講座

外国人住民の生活面での支援や日本語学習を支援する「日本語サポーター」を養成することを目的に、2020年度から「日本語サポーター養成講座」を実施しています。同講座の中で日本語などを学習する講座を併せて実施することで、外国人住民にも参加してもらい、実際にサポーター養成講座の参加者が外国人の学習支援を行うことで、より実践的な講座となるよう工夫しています。



日本語サポーター養成講座の様子

初年度となった2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた2地域のうち、1地域でしか講座を実施できませんでしたが、同講座を受講した方が中心となって、外国人住民のための日本語学習会を立ち上げ、活動を続けていただいています。



参加者からのお礼の手紙など

かごしま国際交流センター

「かごしま国際交流センター」は、本県出身で京セラ株式会社名誉会長の稲盛和夫氏から、鹿児島県と鹿児島市へそれぞれ10億円ずついただいた寄附金を原資に、国際社会に貢献する人材の育成や国際相互理解の促進のための拠点施設として鹿児島市に整備され、2020年4月1日に供用開始しました。



京セラ稲盛名誉会長の顕彰コーナー

同センターは、県が管理運営を行う留学生などのための居住施設と、市が管理運営を行う多目的ホールや調理室などの交流施設に分かれており、これらの多様な機能を活かしながら、「国際交流の推進」「国際理解の推進」「国際協力の推進」「多文化共生の地域づくりの推進」に資する事業を展開しています。



センター内の交流スペース

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度は留学生の多くが入国できない状況が続いたことから、入居者数が想定より大きく下回ったほか、中止や規模の縮小を余儀なくされた事業もありましたが、関係機関と連携し、県民や外国人住民を対象とした各種イベントの開催などにより、施設全体の年間入館者数は3万8千人を超え、鹿児島県の国際交流を推進する拠点施設として多くの方々に利用されました。



居住者交流会の様子

おわりに

鹿児島県は、薩摩半島と大隅半島、さらに多くの離島から構成されており、南北600kmに及ぶ広大な県土を有しています。交通の面などで不便さがある一方で、豊かな自然や食、温泉、歴史などの魅力を有しており、鹿児島に暮らす外国人住民には、日々の暮らしや人との交わりを通じて、鹿児島のことをもっと好きになってもらいたいと思っています。

鹿児島県の多文化共生の取り組みはまだ始まったばかりですが、新たに整備された「かごしま国際交流センター」も活用しながら、県内の外国人住民が「鹿児島に住んで良かった」と思える地域づくりのため、今後ともさまざまな取り組みを行い、多文化共生社会の実現に向けて努力していききたいと思います。